

No. 372【2019年9月6日配信】
青森市における公民館の歴史(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では先週から新しい館内展示「憩いと教養の殿堂!!—中央市民センター開館 50 年」を始めました(展示期間は9月30日まで)。

中央市民センターは今から50年前の昭和44年(1969)に青森市民文化センターとして開館しました(センターについては「あおり歴史トリビア」第150号でもご紹介しました)。この建物には市の中央公民館が置かれたことから、中央公民館という名称で呼んでいたという方もいらっしゃると思います。

そこで、今回は青森市民文化センターが開館するまでの中央公民館の歩みについてご紹介したいと思います。

公民館は昭和21年に出了た文部次官通牒「公民館設置運営について」によって設置が奨励され、全国に普及した社会教育施設です。地域住民の教養の向上や健康の増進を目的として設置され、主に学習会やレクリエーションの場として利用されています。青森市は昭和29年に中央公民館を設置しました。



中央公民館が置かれた旧公会堂
(昭和20年代『復興した 青森』)



のちに中央公民館として使われる興産相互銀行の建物
(昭和30年代 歴史資料室蔵)

最初に中央公民館が置かれたのは旧公会堂(現しあわせプラザの位置)でした。しかし、建物の老朽化などが市議会で指摘され、市中心部に新しい公民館を建設すべきとの意見が出されました。昭和34年には中央公民館を市役所東側の旧興産相互銀行(現タカラスタダード青森ショールーム)へ移しますが、この建物も公民館としては狭く、新しい公民館を建設すべきとの声が再びあがりました。

新しい公民館の建設計画が動き出したのは昭和39年のことでした。千葉元江市長は市議会で中央公民館について「市立松原中学校跡地を社会教育センターとし、その中に設置したい」と述べています。市立松原中学校跡地とは現在中央市民センターがある場所です。

歴史資料室では昭和 40 年に作成された社会教育センターに関する資料を所蔵しています。この資料には具体的な施設配置や予算、建設スケジュールなどの案が記されており、一つの敷地内に公民館・児童会館・児童図書館・婦人会館・博物館をそれぞれ独立した建物として建てる計画であったことがわかりました。



社会教育センター建物配置案
(「社会教育資料綴」〈歴史資料室蔵〉より筆者作成)

その後、市立松原中学校跡地には昭和 43 年の市制 70 周年を記念して市民文化センターを建設することが決まったため、社会教育センター建設は幻の計画となりました。

なお、中央公民館は昭和 40 年に旧北斗高校生徒会館（現中央市民センター附近）、昭和 43 年には市陸上競技場附属スポーツハウス 2 階（現みちぎんドリームスタジアム〈青森市スポーツ会館〉附近）へと移転しています。このように、市民文化センター内に設置されるまでの中央公民館は移転を繰り返し、施設面での制約を受けながら、市民の学習活動の拠点としての役割を果たしていたのです。

※今回の内容は『青森市議会史』自昭和三十六年至昭和三十九年（1983 年 青森市議会）などを参考にしました。